

(人文学研究科人文学専攻修士課程)

	授業科目の名称	講義等の内容
日本語・日本文学コース	日本語学特論Ⅰ・Ⅱ	本講義では、日本語研究をするために必要となる技術と考え方を身につける。特に、資料読解力と分析手法について、さまざまな題材を使って検討・実践していく。授業ではまず、主に近世以降の影印資料を使用し、正確に翻刻する力と内容を吟味する力を身につける。その後、その資料を題材としてどのような日本語研究のテーマ設定が可能かを考え、その分析方法について検討、実際に分析をして研究としてまとめていく。
	日本古典文学特論Ⅰ	平安中期に藤原公任が和歌と漢詩の名句をあつめて編んだ『和漢朗詠集』を取り上げる。作品の丁寧な読解を通して、詩歌の注釈の方法や鑑賞の仕方を学習し、作品の選択・配列のあり方など編纂の意図にまで及んだ考察を行う。これにより、和歌と漢詩に対する研究の方法を理解する。
	日本古典文学特論Ⅱ	前期に引き続いて、平安中期に藤原公任が和歌と漢詩の名句をあつめて編んだ『和漢朗詠集』を取り上げる。作品の丁寧な読解を通して、詩歌の注釈の方法や鑑賞の仕方を学習し、作品の選択・配列のあり方など編纂の意図にまで及んだ考察を行う。日本の文化の中で中国古典がどのように摂取されてきたのかを理解する。
	日本近代文学特論(A)Ⅰ	「高野聖」の成立背景を検証し、「金驢譚」、「白鬼女物語」、「飛縁魔物語」、「龍潭譚」、「妙の宮」といった出典、プレテキストを取り上げて、先行研究の指摘を踏まえ、出典をいかに書き換えたか、その結果からどのようなことが言えるかを検討する。
	日本近代文学特論(A)Ⅱ	「勝手口」「茸の舞姫」の成立背景を検証し、先行研究の指摘を踏まえ、「勝手口」については、閨秀小説との関連、「茸の舞姫」については、「三州奇談」や童謡などとの比較検証を行ない、二作品の方法と主題を検討する。
	日本近代文学特論(B)Ⅰ・Ⅱ	日本近代文学の作品から我々が受け取ってきた感動はどのような仕組みで与えられたのか、新たな感動はどのように発見されるのか、それは他者にどうすれば伝えられるのかというテーマの下に日本近代文学の諸作品を再検討する。諸作品の特質を考察する中で、様々な読解理論や、享受史を検討し、作品の意味発見のメカニズムを明らかにする。他者の〈読み〉、自らの〈読み〉、作品の構造、この三者のダイナミックな関係を具体的な作品を取り上げて分析し、作品について他者と有効な議論を展開するための条件を明示する。今回は、以上のことを芥川龍之介の諸作品を具体例として検討する。
	日本近代文学特論(C)Ⅰ	徳田秋声の作品を取り上げる。秋声文学の特徴、秋声研究に必要な視座を、作品に即して具体的に講義する。
	日本近代文学特論(C)Ⅱ	文芸誌というメディアの機能を視野に入れ、1910年代末から20年代にかけて量産された自己言及的なテキストを再検討する。自然主義から文学が分岐してゆくなかで、自己を表象することがどのような意味を持ち、どのような過程を経て定着していったのか、当時の文脈と個々のテキストの多様性に留意しつつ、その経緯を理解する。
	日本近代文学特論(D)Ⅰ・Ⅱ	日本の近代文学研究における専門的な資料調査や作品分析の方法・理論を学習し、作品の構造や主題を解析していく。先行研究を踏まえながら、自由な発想で作品を読み解き、修士論文へ繋がる応用力を養う。この特論では、指定教科書を利用して、ナラトロジー(物語論)やロシア・フォルマリズム、メタフィクションなどの文学理論や方法論を解説し、テキスト分析を実践的に学んでいく。同時に、他の先行研究も踏まえながら、具体的に太宰治「浦島さん」、永井荷風「墨東奇譚」、森鷗外「山椒大夫」、芥川龍之介「藪の中」などをテキスト分析し、近代文学研究の応用力を養成していく。
	和漢比較文学特論Ⅰ	『本朝文粹』に収められた平安時代中期の漢文作品を取り上げ、注釈を作成しながら精読する。作品が書かれた意図を考察することで、日本の文化の中で中国古典がどのように摂取されてきたのかを理解する。
和漢比較文学特論Ⅱ	「和漢比較文学特論Ⅰ」に引き続いて、『本朝文粹』を取り上げる。作品の丁寧な読解を通して、詩歌の注釈の方法や鑑賞の仕方を学習し、作品の選択・配列のあり方など編纂の意図にまで及んだ考察を行う。日本の文化の中で中国古典がどのように摂取されてきたのかを理解する。	

(人文学研究科人文学専攻修士課程)

	授業科目の名称	講義等の内容
英語・英米文学コース	英語学特論Ⅰ・Ⅱ	「子どもは限られた経験の中で、生後数年でどのようにこれほど豊富な言語知識を身につけるだろうか。」この問題は、「プラトンの問題」と呼ばれているが、本授業では、生成文法理論の基本的な概念を学びながら、母語獲得に本当にプラトンの問題が存在するのか、また、第二言語獲得においても同様にこの問題が存在するのか、という問いを、主に英語の獲得の例を見ながら科学的に探求する。また、実際に子どもの発話コーパスを使って仮説を検証する方法も学ぶ。授業は主に学生のレポートや発表を中心に進められる。
	英文学講読特論Ⅰ・Ⅱ	16世紀から17世紀にイングランドで書かれた文学作品を講読する。それぞれの物語の概要を理解しながら、それぞれがどのように読まれ、受け止められていたのかを考察し、当代の文学ジャンルと文化的前提について理解を深める。
	イギリス小説特論Ⅰ	イギリス小説の礎を築き、後世の作家たちに影響を与え続けているジェイン・オースティンのSense and Sensibilityを講読する。教師が講義をするのではなく、学生が事前に作品や参考文献を講読し、問題意識を持って授業に臨む必要がある。授業時間は概ね、事前の学習で理解したことを確認したり、問題を解決するための議論の場になる。
	イギリス小説特論Ⅱ	17世紀ロンドンを襲ったペストの惨状を丹念な調査で克明に記録した、Daniel DefoeのA Journal of the Plague Yearを講読する。教師が講義をするのではなく、学生が事前に作品や参考文献を講読し、問題意識を持って授業に臨む必要がある。授業時間は概ね、事前の学習で理解したことを確認したり、問題を解決するための議論の場になる。
	言語学特論Ⅰ	理論言語学の中の「認知文法」の観点から言葉を分析する方法論を学ぶ。毎回、キーワードに関連する例文を取り上げ、言語現象として何が問題なのかを明らかにしながら、関連する課題の答えを追求していく。その過程で、言葉を研究したり、教えたりする力を身につけることが到達目標である。
	言語学特論Ⅱ	理論言語学の中の「機能文法」の観点から言葉を分析する方法論を学ぶ。毎回、キーワードに関連する例文を取り上げ、言語現象として何が問題なのかを明らかにしながら、関連する課題を取り上げ、答えを追求していく。その過程で、言葉を研究したり、教えたりする力を身につけることが到達目標である。
	応用言語学特論Ⅰ・Ⅱ	言語学や第二言語習得研究で明らかにされた知見をどのように外国語教育に応用するのかについて文献を読み、議論していく中で、外国語教育や外国語習得の特徴を理解していく。そして、外国語能力を向上させるために教員や学習者ができることを考える。応用言語学に関する基礎知識を得ながら、ひとりで英語文献を読みこなし、疑問や批判を含めた完成度の高いレビューが出来るようになることも目標のひとつである。 本授業は主に、パラグラフ単位等で概要を説明する輪読形式により行われる。処理可能性仮説 (Processability Theory) に関する文献を読んでいくが、章ごとに、受講生にはレビューの提出が求められる。従って、事前に準備して理解しておくとともに、内容について批判的に考えて授業に臨む必要がある。

(人文学研究科人文学専攻修士課程)

	授業科目の名称	講義等の内容
歴史文化コース	日本歴史文化学特論 I	日本中世史の研究を進めていく上で、先行研究の成果を参照しながら中世史上の諸概念や論点について理解を深めさせる。そのことを通して、日本中世史に関して探求すべき問題点の発見や研究テーマの設定につなげ得る考察力の向上を目指す。
	日本歴史文化学特論 II	日本中世史の研究を進めていく上での、標準的な史料の読解および史料操作について習熟し、併せて先行研究の成果を参照しながら中世史上の諸概念や論点について理解を深めさせる。そのことを通して、日本中世史に関する諸史料の読解力を向上させながら、それを探求すべき問題点の発見や研究テーマの設定につなげ得る考察力の向上を目指す。
	アジア歴史文化学特論 I・II	前近代の東アジア漢字文化圏における社会史料やそれについて書かれた研究書・論文を講読し、報告と討論をおこなう。
	欧米歴史文化学特論 I	疫病が歴史に及ぼす影響の大きさは、昨今のコロナ禍を見ても明らかである。そこで疫病が西洋社会に与えた影響を歴史的に考察することで、西洋社会について掘り下げて考察する力を養う。学期末には授業で学んだことを踏まえ、欧米に関する受講者の関心のあるテーマを選び発表を行い、西洋文化を表現する力も養う。
	欧米歴史文化学特論 II	医学を含めて、科学に対する世論の期待の大きさは、昨今のコロナ禍を見ても明らかである。しかし、そもそも科学とはどのように定義されるのか、そしてどのように形成されてきたのか。この問題を検討することを通じて、西洋社会について掘り下げて考察する力を養う。学期末には授業で学んだことを踏まえ、欧米に関する受講者の関心のあるテーマを選び発表を行い、西洋文化を表現する力も養う。
	地域歴史学特論 I	本講義では、加賀藩において発給された知行宛行状（知行宛行の判物・印判状）の検討を通して、加賀藩内における組織整備や身分制の確立過程などを理解する。検討にあたっては、史料読解能力の修得だけでなく、古文書学の様式論や形態論、機能論、伝来論を用いた分析の仕方を駆使し、一次史料に基づく研究の重要性を理解するとともに、その手法を修得する。
	地域歴史学特論 II	本講義では、前期の「地域歴史学特論 I」で学んだ手法について、加賀藩以外の諸藩の実例をもとに確認・実践していく。具体的には、諸藩において発給された知行宛行状（知行宛行の判物・印判状）の検討を通して、組織整備や身分制の確立過程などを理解する。検討にあたっては、史料読解能力の修得だけでなく、古文書学の様式論や形態論、機能論、伝来論を用いた分析の仕方を駆使し、一次史料に基づく研究の重要性を理解するとともに、その手法を修得する。
	日本考古学特論 I	古代の日本列島に関する調査報告書や研究論文を講読し、内容についての討議を行う。遺跡や遺物の調査を行い、その調査成果についての演習発表と討議を行う。
	日本考古学特論 II	中近世の日本列島に関する発掘調査報告書や考古学の研究論文を講読し、内容についての討議を行う。
	日本文化特論 I	日本の文化、とりわけ伝統的文化の理解には、日本宗教史の理解が不可欠であるといえる。本講義では、このような観点から、中世の宗教文化のあり方について、寺社勢力の動向から探っていく。今年度は中世加賀の白山宮の動向を伝える「白山宮荘厳講中記録」を通読していく。
	日本文化特論 II	平安期の文学を中心に、代表的な作品の有名な場面を取り上げて講読する。文学史上の大きな流れをとらえるとともに、現代の日本文化にも息づく古典の精神を理解する。
	西洋美術史特論 I	古代エジプトからルネッサンス期、および近世の絵画や彫刻、工芸、建築を介して、現代にも通ずる普遍的な芸術性を追求する。また古代ギリシアやローマの遺跡での担当教員の復元画制作の過程を紹介しながら、芸術の本質や理念についても講ずる。
	西洋美術史特論 II	西洋美術の近世から世紀末にかけての絵画や彫刻、工芸、建築を解説する。内容は西洋の枠組みにとらわれず、他の文化圏も相対的に比較検討することにより、現代にも通ずる本質的な芸術性を考察する。また日本の城郭建築における西洋の影響にも触れる。

	授業科目の名称	講義等の内容
専 門 科 目	保健医療分野に関する理論と支援の展開	保健医療分野における公認心理師の実践について学ぶ。保健医療の現場において効果的な実践を行うには、臨床心理学的問題を抱えた人への関わりや情報のききとりと見立て、そして適切な報告および多職種での連携を行う必要がある。本科目では病院・診療所・保健所等における活動内容やそのプロセスについて整理し、理解を深める。一般的な疾患やその診断基準についての知識を習得し、心理的な不適応のみならず身体科の疾患を抱えた患者への支援に関わる理論についても学ぶ。
	福祉分野に関する理論と支援の展開	福祉分野における公認心理師の実践について学ぶ。子どもに関するテーマとして虐待・発達障害・子育て支援の法規・理論・実践を、障害者・高齢者に関するテーマとして発達障害・認知症・虐待についての法規・理論・実践を学ぶ。障害を抱える本人のみならず家族への心理支援に関して理解を深めるとともに、児童相談所、療育施設、心身障害者福祉センター、障害者作業所、女性相談センター、老人福祉施設等における支援活動の実際についても整理する。
	教育分野に関する理論と支援の展開	教育分野における公認心理師の実践について学ぶ。現代の学校や児童・生徒をとりまくいじめや不登校、発達障害といった問題やそれらに関連する法規を整理するとともに、学校を通して多職種が連携して子どもを育むための活動の内容とプロセスについて理解を深める。学習面での指導のみならず、キャリア教育や多様なバックグラウンドを持つ学習者への配慮といった学校現場において行われる多岐にわたる教育内容や対応についても確認する。加えて、小学校でのスクールカウンセリングから大学での学生相談までを視野に入れ、コンサルテーションや緊急支援や集団での守秘義務といった臨床心理学的実践を行う上での配慮についても習得する。
	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	司法・犯罪分野における公認心理師の実践について学ぶ。犯罪とそれに関わる心理学的理論を整理し、触法精神障害者や依存や嗜癖の問題を抱える者への対応等についても習得する。犯罪傾向やリスクのアセスメント、司法面接、精神鑑定、矯正・社会適応に向けた処遇、犯罪の予防、犯罪被害者の臨床心理学的支援に関して理解を深めるとともに、家庭裁判所、少年鑑別所、刑務所、拘留所、少年院、保護観察所、児童自立支援施設、警察関係相談機関における支援活動の実際についても整理する。
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	産業・労働分野における公認心理師の実践について学ぶ。現代の労働市場や職業に関する理論・社会制度を概観し、労働者の心理的健康に関わる要因について、採用から退職までの支援やハラスメント、ワークライフバランスといったテーマを題材に整理していく。企業内メンタルヘルス向上をめざす臨床心理学的支援の理論や連携に向けたスキルを獲得し、企業内相談室、企業内健康管理センター、安全保健センター、ハローワーク、障害者職業センター等における支援活動の実際についての理解も深める。
	心理的アセスメントに関する理論と実践	臨床心理学的支援の主要プロセスを構成する心理的アセスメントについて知識と技能を習得する。アセスメントの意義、面接・検査・観察等を通じた方法の利点と限界、それらを活かした検査バッテリーの組み方について考察し理解を深める。知能検査、性格検査、発達検査、神経心理学的検査を実施し、分析の上で報告書を作成する体験を通し、各種検査の特徴を実践的に学ぶ。得られた情報をどのようにまとめて被検査者や関係者にフィードバックするのか、そして多様な現場で他の専門家とどのように情報を活かすかについても理解したうえでアセスメントを行えるようになることを目指す。
	心理支援に関する理論と実践	臨床心理学的支援の核となるプロセスである相談・助言その他の援助である心理支援についての理論と実践を学ぶ。心理療法の主要理論として力動論、行動論・認知論、その他の心理療法の理論と方法、応用、事例検討とスーパービジョンについて整理する。エビデンスに基づいて適切な介入を選択すること、援助プロセスの評価についても理解を深める。

	授業科目の名称	講義等の内容
専門科目	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	公認心理師は、援助を要する者の関係者への助言・相談を行う場面を多く経験する。本科目ではこれをふまえ、家族心理学や集団心理学、コミュニティ心理学の知見を整理し、それらを臨床心理学的援助に応用する技法について学ぶ。援助を要する者の家族関係や周囲の環境も含めたアセスメント、関係者への助言・相談、家族や地域社会あるいは多職種との協働について知り、自助グループのサポートやアクションリサーチといった実践活動についても理解を深める。
	心の健康教育に関する理論と実践	人々の心の健康の維持・向上をめざした心の健康教育の活動は公認心理師の使命である。本科目では予防的な心理支援の中心となる心の健康教育について、心理教育や嗜癖等の問題、地域援助との関連もふまえながら理論と技法を整理していく。災害時の危機介入やコミュニティへの支援についても理解を深める。
	心理実践実習A	公認心理師が行う実践活動の実際を学ぶ上での初歩的な位置づけとなる実習科目である。主に本科目では心理に関する支援を要する者等に関する(1)コミュニケーション、(2)心理検査、(3)心理面接、(4)地域支援等について、学内外の施設における見学を中心に理解を深める。他科目で習得・整理した臨床心理学的支援に関する知識や技能が実践現場でどのように用いられ、国民の心の健康の保持増進に活用されているのかを考察する。
専門科目	心理実践実習B	心理実践実習Aで体得する知識及び技能を生かしながら、ケース全体や要支援者像を総合的にとらえられるようになるための実習科目である。主に本科目では心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成について、学内外の施設における見学およびケース担当、カンファレンスでの検討等で理解を深める。他科目で習得・整理した臨床心理学的支援に関する知識や技能が実践現場でどのように用いられ、国民の心の健康の保持増進に活用されているのかを考察し、一部の技法については実践できるようになることを目指す。
	心理実践実習C	心理実践実習Aおよび心理実践実習Bで習得した実践的な知識や技法を踏まえ、本科目では心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、他職種連携および地域連携についても理解した上で臨床心理学的支援を行えるようになることを目標とした実習である。支援の現場においては要支援者とその関係者への支援も視野に入れた活動、他の専門職との連携・協働が求められる。学内外の施設内の関係者にとどまらず、地域支援の多様な立場の専門職が国民の心の健康の保持増進のために行っている活動について理解し、実践できることをめざす。適切な情報共有と守秘義務のバランス感覚やコミュニケーションスキル等を、見学、ケース担当、カンファレンス、スーパーヴィジョンで習得する。
	心理実践実習D	心理実践実習Cと並行し、公認心理師という専門職としての職責を満たすためにふさわしい、エビデンスに基づいた省察的实践を行えるようになることを目指す実習である。学内外施設での実習およびその振り返りを通して、アセスメント、適切な支援法の選択、他の関係者との連携、コミュニティ全体を視野に入れた支援等を理解・実践する。公認心理師としての活動全体を俯瞰的にとらえ、職業倫理および法的義務への理解を深めることを目標とする。
	計量心理学特論 I	科学としての心理学を実践するため必要不可欠な道具である各種の統計技法のうち、多変量解析についての理論と実践を学ぶ。多変量解析の手法は多岐に渡り、研究の目的と収集される情報の性質に応じて適切に選択して使い分ける必要がある。心理学において利用されることが多い重回帰分析、ロジスティック回帰分析、因子分析、主成分分析、判別分析、クラスター分析、MDS、MANOVAを取り上げ、分析を実行するために必要となる理論知識を学ぶとともに、ソフトウェアを用いた具体的な実行方法について習得する。

	授業科目の名称	講義等の内容
専門科目	計量心理学特論Ⅱ	科学としての心理学を実践するため必要不可欠な道具である各種の統計技法のうち、多変量解析の中でも汎用性の高い技法である共分散構造分析（SEM）についての理論と実践を学ぶ。SEMは分析仮説に応じて柔軟に推定モデルを構成することが可能だが、これを自由に使いこなすためには基礎的な理論に関する理解が必要となる。またソフトウェアの使い方も比較的複雑であり、様々な実践的ノウハウも重要となる。理論の講義とソフトウェアを用いた実習を並行して行うことで、心理学の研究においてSEMを利用できる総合的な能力を習得する。
	行動分析学特論Ⅰ	行動療法を構成する種々の技法は、技能訓練や習慣の改善、障害を持つ子どもの療育、矯正教育、リハビリテーションなどの幅広い分野に応用されている。これらの技法の根底には学習理論と行動分析の考え方がある。この科目では、行動分析の理論について、その基礎をなす実験的行動分析を学び、先行条件・弁別刺激などの環境・状況要因と強化・弱화가、行動を習得・維持させる機構および制御する機構について理解する。
	行動分析学特論Ⅱ	実験室的環境で検証されてきた行動分析の理論は、発達障害の子どもの療育や、学校環境での不適応行動・問題行動の理解といった現実場面にも応用されており、こちらは応用行動分析と呼ばれる。本科目では、応用行動分析の考え方およびその実践について理解すると同時に、現実場面での効果測定には必須の少数事例・1事例の実験デザインなどの研究手法を学び、応用行動分析を用いた援助の手法を習得することを目的とする。
	心理支援法演習	心理支援を行うためには、要支援者のアタッチメントの特徴や有しているソーシャルサポート源といった、精神的健康に関連する対人関係の要素を理解することが必要となる。本科目では、対人関係の発達を理解した上で、エビデンスに基づいた支持的な精神療法について学ぶことを目的とする。支援者が対象者に対して支持的に関わり続けるために必要な知識、技能、技法の習得を目指す。
	高齢者臨床心理学演習	日本は高齢社会であり、高齢者やその関係者が臨床心理学の援助の対象となる場合も少なくない。しかし高齢者支援に携わる多くの専門家は自身が高齢期を経験していない場合が多く、援助に際して困難を感じることも少なくない。本科目ではこのような背景をふまえ、高齢者のメンタルヘルス、認知症、発達課題、喪失、介護等をキーワードとして高齢者心理学について整理する。加えて、生物-心理-社会モデルに基づいた高齢者支援の臨床心理学についての実践的な知識を習得することをめざす。
	プロトコル分析演習Ⅰ	プロトコル分析の一種であるテキストマイニングに焦点をあて、同手法を用いた事例を概観しながら具体的な分析方法について学ぶ。テキストエディタや計算ソフトの基本操作の復習から始め、質的データであるテキストから必要な情報を抽出して量的データに変換するための技術として、正規表現やプログラムを用いたパターン分析の方法を身につける。
	プロトコル分析演習Ⅱ	プロトコル分析の一種であるテキストマイニングに焦点をあて、同手法を用いた事例を概観しながら具体的な分析方法について学ぶ。『プロトコル分析演習Ⅰ』の内容を踏まえ、抽出されたデータを分析する手法として、カイ二乗分析やクラスター分析等の推測統計を実践的に学ぶ。また、結果を考察するための基本的知識を習得し、論文・口頭発表等における効果的な表現方法について理解を深める。